

信濃川下流の河川維持管理の現状

信濃川下流の河川維持管理における主な特徴

- 堤防や護岸、堰・水門、排水機場（14施設）等の河川管理施設や河道の状況について、機能が確保されるよう巡視・点検等を行い、必要に応じて維持修繕を実施している。特に軟弱地盤であること、河床材料の粒径が非常に小さいことによる護岸背後の空洞化や、低水路の蛇行が多いことによる局所的な侵食に対する補修を実施している。また、大規模な河川管理施設（新潟大堰・信濃川水門、蒲原大堰・中ノ口川水門、鳥屋野潟排水機場、西川排水機場）の維持管理を行っており、引き続き、適切な施設機能の維持・確保を行うとともに、ライフサイクルコストの縮減を念頭に、施設の長寿命化のための効率的な維持管理を実施していく必要がある。
- 河川の利用については、高水敷の80%が農地として占用・利用されていることなどから、占用者と連携・調整を実施している。また、新潟市街地付近の一般者の利用が多い「やすらぎ堤」等では、安全施設の設置・点検・補修を行うなど、きめ細やかな管理を実施している。引き続き、水辺空間や河川利用に関する多様なニーズを踏まえ、地域と一体となって、適切な河川利用に向けた取り組みを実施していく必要がある。
- 河川水の利用について、渇水のみではなく、「冷夏」その他異常気象時などにおいても情報連絡、情報交換、水利使用の方針等を円滑に進めることを目的とした「信濃川下流水利用情報連絡会」を設置。引き続き、関係機関や水利使用者等と連携して情報の伝達・共有を図り、渇水や、異常気象時における被害の拡大防止に努めていく必要がある。

川の365日（日々の河川管理）

- 以下の目的で河川巡視を週2回実施してる。
 - ・河川区域における違法行為の発見
 - ・河川管理施設及び許可工作物の維持状況の確認
 - ・河川空間の利用に関する情報収集
 - ・河川の自然環境に関する情報収集
- 河川巡視や堤防点検のため堤防除草を年2回実施。
- 特に「やすらぎ堤」は背後地が人口密集地であり、利用者も多いことから、きめ細やかな管理を実施。



河川巡視による発見と早急な対応



不法投棄の発見・対応



「やすらぎ堤」の状況

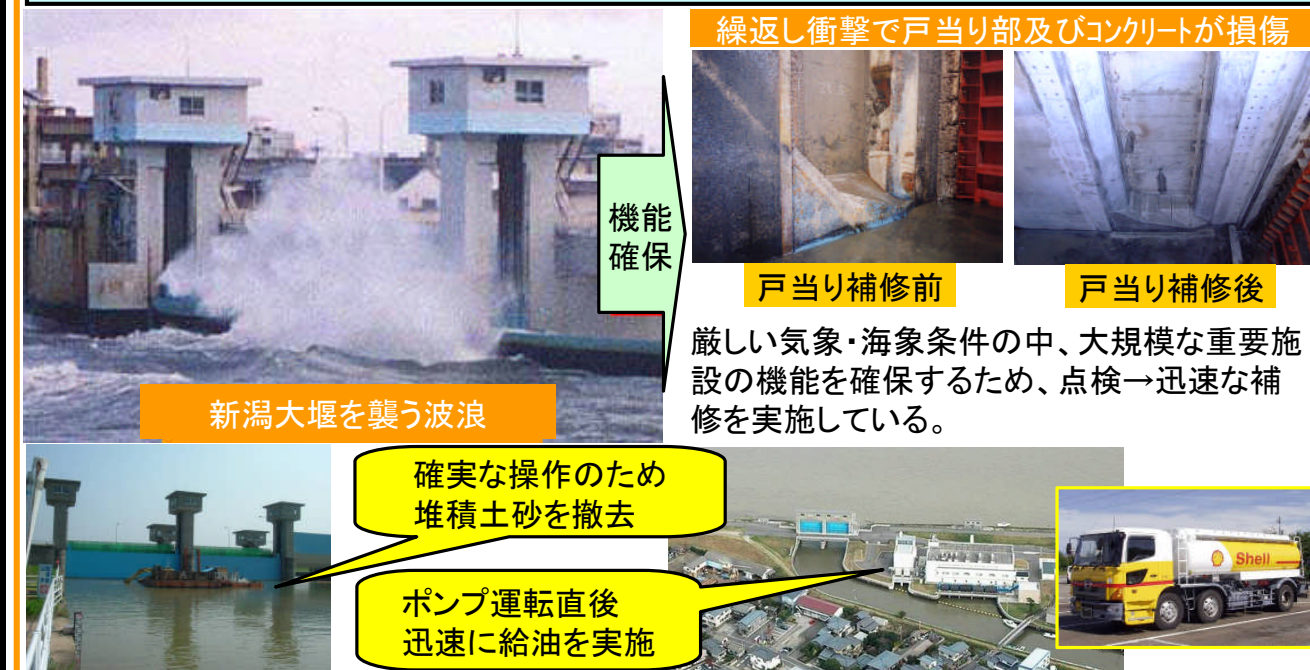


河岸の侵食箇所の対策



河川管理施設の監視・操作・点検・整備

- 新潟大堰・信濃川水門・蒲原大堰・中ノ口川水門は洪水や渇水に備え、水量調節のため常時24時間体制で監視・操作を実施している。
- 施設の機能に支障が生じないように点検・整備を行っている。



新潟大堰・信濃川水門・蒲原大堰・中ノ口川水門は昭和40年代後半から昭和50年代前半に設置され30年以上経過しており、今後の老朽化・維持費の増大が懸念される。

河川利用

- 不法行為・不法係留について監視をしている。
- 安全利用点検を5月連休前と夏休み前に関係機関や一般利用者とともに実施している。
- 新潟市街地付近では川への転落者の対応として、救命ロープの設置・補修等を行っている。
- 「小須戸水辺の楽校」は信濃川下流管内唯一の水辺の楽校であり、活用のため地域と連携に努めている。



信濃川下流水利用情報連絡会の設置

- 渇水時における関係利水者間の水利使用の協議を円滑に行い、水利使用を効果的かつ適正に実施するための体制として、昭和57年に信濃川下流渇水情報連絡会を設置。
- 同情報連絡会は、渇水のみではなく、「冷夏」その他異常気象時などにおいても、情報連絡、情報交換、水利使用の方針等を円滑に進めることを目的として、平成16年に信濃川下流水利用情報連絡会に改められた。



信濃川下流水利用情報連絡会



取水口からの取水不能（加茂市、平成6年渇水）